

■ 尿路結石

腎臓～尿管～膀胱～尿道といった尿の通り道にできた結石のことです。結石は腎臓でつくられ、尿の流れとともに尿管、膀胱へと移動しますが、その過程で詰まってしまうと、尿の流れが妨げられ、痛みや発熱を引き起こすことがあります。結石は、結石のある場所により、呼び名が変わります(例:腎臓内→腎臓結石、尿管内→尿管結石、膀胱内→膀胱結石)。

1) 症状

腎臓内にある時は、ほとんど自覚症状はありません。尿検査での異常(尿潜血や尿中白血球の増加など)で見つかることもあります。結石が尿管に移動すると(尿管結石)、前述した尿検査異常のほかに、尿に血液が混じったり、疼痛が生じることがあります。結石が尿管内に詰まり、尿の流れが妨げられると、激しい痛み(腰や背中、脇腹、下腹部の痛み)や、発熱の原因となり、緊急に処置が必要になることもあります。

2) 原因

尿路結石は様々な要因が複雑に関係していると言われます。原因として考えられていることとして、結石成分となる物質の過剰摂取(シュウ酸や尿酸など)、尿の停滞を来すような尿路の病氣、尿路感染、薬剤、遺伝、食事などが挙げられていますが、これらの1つというより、いくつかの関係していると考えられます。

3) 検査

レントゲン検査やエコー検査により、結石のある場所、大きさ、個数などを調べます。単純レントゲンやエコー検査でも結石の有無が明らかでない場合は、CT検査や造影検査を行います。

4) 治療

- 保存的治療:結石が小さく(およそ5mm 以下)の場合は、自然に排石される可能性がありますので、結石を排出しやすくする薬を飲んで頂きながら、経過観察します。
- 体外衝撃波結石破砕術(SWL):体外の装置によって造られた衝撃波(音波の一種)を結石にむけて集中させて結石を砕き、砂状にして尿と一緒に体外へと排出させる治療法です。体への負担も少なく、外来通院で施行可能です。尿管の下部の結石では効果が落ちます。
- 内視鏡による結石破砕術:尿道から内視鏡を挿入して膀胱内や尿管内の結石を破砕する方法(経尿道的結石破砕術:TUL)と背中から腎臓に針を刺して内視鏡を腎臓に挿入して破砕する方法(経皮的腎結石破砕術:PCNL)の2種類あります。TULは主に、膀胱内や尿管内の結石に対して行います。一方、PCNLは腎臓内や腎臓尿管のつなぎ目部分の結石に対して行います。

5) 再発予防について

患者さんの約20～40%は、治療後も、結石の再発がみられると言われていています。再発予防のための日常生活における注意点をまとめてありますので、ご参考にして下さい。